

学校教育（小学校3学年 総合的な学習の時間）

佐藤節子

分野の今日的な概要

授業に導入するとき、評価の見極めに温度差がでるだろうと懸念される。指導員でない先生方がNGを取り扱うことも可能だと思いがいかなだろうか。学校現場において自然体験活動の中のアクティビティに活用できる。

分野を理解するキーワードとその説明

自然となかよく＝自然の中で存分に遊ぶ・過ごすために、自分にできることを考える。先ず身の回りの自然環境に気づき守るための活動を始めることを学習する。

事例の概要

本校、第3学年の総合的な学習の時間は環境への気づきがテーマになっている。校庭や学校ビオトープでの飼育や観察と併せて、ネイチャーゲームを出授業で実施した。自然を通じた遊びや体験活動は、自然とのいい関わりについて考える原動力となった。ネイチャーゲームは、主体的な学びや知識の活用、仲間とのコミュニケーションの場の確保等おおいに役立っている。

事例の内容

●ねらい

- ・校庭や学校ビオトープの周りにある動植物などの自然の豊かさに興味・関心を持つようとする。
（関心・意欲・態度）
- ・自分なりに活動の計画を立て、見通しをもって学習しようとする。
（総合的な思考・判断）
- ・わかったことや感じたことなどを自分なりにまとめ、発表することができる。
（技能・表現）
- ・学習をもとに自然の豊かさを守るために自分の生活から見直し、自分にできることを考えることができる。
（知識を応用し総合する力）

●実施アクティビティ

総合的な学習の時間…6時間取扱

第1・2時 大きく育て「わたしの木」—NG【木へのインタビュー】

3・4 学校ビオトープに名前をつけよう

資料1 マコモ植栽 資料2 トンボ看板—NG【コウモリとガ】

5・6 自然となかよく

NG【ノーズ】、資料3 日なたとひかげ、資料4 NG【サウンドマップ】

NG【マイクロハイク】

●参加者の反応

ネイチャーゲームを導入することで、あきずに学習に参加する姿が増えた。

歓声を上げたりつぶやいたりいろいろな感覚を活用して楽しそうに学んでいた。

分野におけるネイチャーゲーム実践のポイントと留意点

各自、2学期のテーマについて考える授業のねらい。

- ・「自分にできる人の役に立つこと」について話し合う。
- ・自然との共生を目指し、自分の取組を軌道修正する。

ここでは、自分だけの自然じゃないということを受けとめることや安心して活動するために自然との共有が大切になることを、児童の活動や感想の中から引き出す。

活動の評価

目標の達成及び指導の成果

- ・生きものへの関心を高めることができる。（関心・意欲・態度）
- ・もっとネイチャーゲームをやりたくなる。（関心・意欲・態度）
- ・気づきにくい自然を「いい気持ちだな」と受け止めることができる。（思考・判断）
- ・「友だちのいいところ」を認めることができる。（思考・判断）
- ・自然への働きかけの原動力となる。（学習活動にかかわる技能・表現）
- ・自然を守るための活動をしたい。（学習活動に関わる技能・表現）
- ・自然の中で遊ぶために「自然をきれいにしよう」と思う（知識を応用し総合する力）
- ・自然のことをもっと知りたくなる。（知識を応用し総合する力）

今後の課題

- ・自然と関わっていくときに、自分にできることをいかに実践するか。
- ・学校の周りの自然環境は、自分たちの生活のしかたに関係していることの認識をいかに持続させるか。
- ・各自の学習活動により役立つネイチャーゲームの選択や提示の場の工夫
- ・ゴミを散らさない、自然を気にかける態度の育成。

写真、プログラムシート



分野を学ぶための参考資料

ネイチャーゲーム体験ノート「公園」編 「街」編 「雑木林」編

小学校の授業に生きるネイチャーゲーム

分野に関係する主要団体

小学校 中学校